

高齢者とペット①



～できる限り一緒に、幸せに暮らすために～

子育ても終わり、これからは大好きな動物を飼って楽しい余生を送ろう・・・誰もが最初はそう思っているでしょう。しかし、人間が長寿になると同時に、犬や猫も20歳を超える長生きさんが増えています。もし60歳で飼ったら動物を看取るとき、飼い主さんは80歳かもしれません。ぜひ体のきく元気なうちに、できることを準備しておきましょう。

<ペットを飼う前に>

①自分の年齢とペットの寿命を考えて「成犬や成猫」を飼う

行政の動物愛護センターや民間団体で保護している動物も選択肢に加える。大人になったことで個性も見え、より飼い主さんのライフスタイルに合ったペットを探せる。

②ペットと飼い主さんの「老々介護」が問題に

動物にも介護があると想定しておく。



③純血種はその「特性をよ～く調べて」から

ヨチヨチと愛くるしい子犬も必ず大きくなり、犬種の特性が現れる。自分にお世話やしつけができる種類かを見極めよう。実際に、新潟県動物愛護センターには下記の相談があった。

例1)メスのレトリバー(体重25kg)を見て気に入り、オスの子犬を買ったら40kgに成長

→こんなに大きくなると思わず扱えない。

例2)狩猟犬であるミニチュア・ダックスフンド。

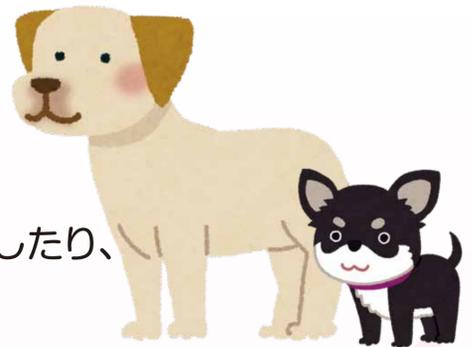
→大きな声で吠えて近所から苦情が!(吠えは悩み相談中最も多い)

例3)ジャックラッセルや牧羊犬のボーダー・コリーは活動量が多い

→高齢者と体力が合わず、散歩が不足。犬も欲求不満に。

例4)頭が良く従順そうなラブラドルや柴犬→

しつけを怠ったら頭が良い分暴君に!?! 散歩中に引きずられて骨折したり、本犬は甘噛みのつもりでも人間は大出血というケースも・・・。



他にも、その種がなりやすい病気がある。動物が悪いわけではなく「特性」なので、それでも良いと受け止め、一生愛情を持って世話ができるかどうかです。



認知症になった飼い主さんのもとで
ネグレクトの状態だったサブちゃん(左)。
本来はこんなにかわいいトイプードルだった(右)。

高齢者とペット②



<ペットを飼ったら>

①「だろう」ではダメ

万が一のとき、誰か何とかしてくれるだろうの「だろう」ではダメ。ペットを託せる人、すぐに駆けつけてくれる人を確保しておく。

②飼い主さん以外にもフレンドリーになる「しつけ」を

家族にはなついても、他人に攻撃的なワンちゃんがいる。

特に「咬みつき犬」はお世話も譲渡も難しい。しつけ教室を受講するなどして改善しておく。



③「経済的」にも余裕が大事

大型犬は大型自動車、小型犬や猫は軽自動車くらいのお金が一生にかかるといわれる。(トリミング料は別) 老後の医療費も考慮しておく。

④「情報収集」を積極的に

最近では、ペットと一緒に入居できる介護施設もある。お金を遺そうと後見人を立てて遺言状を作成したり、ペット信託を利用する人もいる。自身が元気なうちに、気になる仕組みや施設を確かめておこう!

⑤「狂犬病予防接種やワクチン」を打っておく

犬の登録と狂犬病予防接種は飼い主の義務。

混合ワクチンも受けていないとペットホテルなどは預かってくれない。



⑥ギリギリまでがまんせず、ペットがいると人に知らせる

県動物愛護センターには、飼い主さんが入院したり、亡くなるなど「事後」に持ち込まれるペットも多いそう。特に猫は散歩がないので飼っている事を近所の人にもわからない。飼い主さんが認知症になり、ペットが放置されている状態もある。人に迷惑をかけちゃいけない、恥ずかしいと思わず、日頃から「何かあったら、うちのネコちゃんお願い」と周囲に声がけしておく。

<最後におねがい>

10歳以上の高齢のペットの場合、募集をしても里親さんは簡単に見つかりません。温かい家の中で家族同様に暮らしてきたペットの終末が悲しいものでは飼い主さんも生涯後悔します。もし周囲にペットを飼いたい高齢者がいたら、身近な方々で支えてください。

行政や新潟県動物愛護協会主催の「しつけ教室」を活用しましょう!

これから飼う人も、すでに飼っている人も一度受けてみてはいかがでしょうか。最寄りの動物愛護センター、動物管理センター、保健所、新潟県動物愛護協会(各支部)などにお問い合わせください。



取材協力：新潟県動物愛護センター

ラブラドルのティアラちゃん。高齢で足腰が弱くなり、住居部への階段が使いえなくなりました。飼い主さんが抱っこするには重すぎるので、階段部にエレベーターを作りました。ペットにも老化現象があり、それを支えられるのは飼い主さんだけです。

